

素直が
並い!

30 阪神・淡路大震災
1995(平7) 1.17(火)
5時46分 M7.3

14 東日本大震災
2011(平23) 3.11(金)
14時46分 M9.0

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.416

2025(令和7)年1月18日(土)発行



■ **はらまち九条の会** は、戦争放棄の憲法9条を守り、永久に「戦争をしない国・日本」であることを願い、「鈴木安蔵の出身地の九条の会」を誇りに活動する自由な市民の会です。支持政党や宗教を問わず、何の拘束もなく、匿名でもご入会ください。■結成は2005年12月、今年20年目です。会員は南相馬市原町区を中心に337名。■会費は年千円。会報を隔月で発行しています。

会員の皆さまへ 今年もよろしくお願ひいたします

はらまち九条の会 会長 平田慶肇

明けましておめでとうございます。

本会は2005年12月7日の発足ですから、おかげさまで今年12月で満20年を迎えます。この長い間、憲法第9条の平和条項を護るため様々な活動を行ってきましたが、その都度会員の皆さまのご理解とご支援をいただき、心より御礼を申し上げます。

岸田政権から石破政権に代わり、またアメリカもトランプ大統領になりさまざま不安なことが予想されていますが、微力でも無力ではありません。声を出すこと、発信することが大事と思います。皆さまとともに今年も憲法第9条の「戦争をしない国・日本」を護るため活動していきましょう。

まだまだ、コロナやインフルエンザが流行しています。お互いに健康に充分注意しながら、今年一年も元気に過ごしましょう。今年も本会をよろしくお願ひいたします。

「南相馬九条の会」に生まれ変わるために 事務局長 早坂吉彦

昨年6月の総会での皆さまからの御意見を踏まえ、新たに「南相馬九条の会」として生まれ変わるため、事務局でも議論しています。ここ一年、事務局員の数名が体調を崩しており、会計・会報の印刷・連絡調整などの実務面で活動して下さる方はいらっしゃいませんが。あるいはどなたかを推薦していただいても有難いです。

事務局としては今年6月15日(日)の総会を目途に、小高・原町・鹿島を内包した新しい九条の会に移行できればと考えています。ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

会員さんの著作より



再生は 遙か彼方に 鈴木正一
あれから間もなく一〇年
あふしぶりの 久しぶりの帰還
街並みは
砕石の更地と 雑草の荒地に
所々にポツンと
取り壊しの順番を待つ 建物
郷土住民の結の絆は
雲散霧消
動植物の有機的な命の連鎖
先人が築いた尊い風土
有形無形の至宝が全て奪われた
帰還した住民には
被ばく不安の毎日が
帰還困難(津島) 区域の除染は
殆んど手付かず
一〇年経ても 計画迷走
環境省職員の本音
「百年後も帰宅は無理かも」
心労は 時間の経過で軽減するか
否、否 増すばかり
ふるさとの ふるさとの
再生は 遙か彼方に

▲鈴木正一著
『あなたの遺言・わが浪江町の叫び』2023年刊
コールサック社

この著作で鈴木さんは、原発事故で浪江町民として被災し避難生活などで翻弄された不条理や、原発裁判の理不尽さを、27篇の詩や10編の評論で、詳細に厳しく訴えています。評論「あるく被災業民>の闘い」や「清戸迫横穴の発見」も興味深い。浪江原発訴訟原告団団長。本会の会員さんです。

日本被団協に ノーベル平和賞

日本政府も核禁止条約の批准を

核兵器の非人間性を語り継ぎ、核廃絶を訴えてきた日本被団協は、昨年12月10日ノーベル平和賞を受賞しました。今後の若者への継承も大事です。

▶田中照巳(92歳)とノーベル委員会フリドリネス委員長(四〇歳)。



田中照巳さん 授賞式での演説

■核兵器は人類とは共存できず、自滅しないように廃絶を目指すことです。■核のタブーが壊されようとしていることに、くやしさと憤りを覚える。■国家と国民は対等で、政府の戦争の被害受忍論は間違っていて国家は補償をすべきです。■また政府は原爆での死者への償いも全くしていない。■核兵器も戦争もない世界を求めて共に頑張りましょう！

被団協の活動を停滞させた プレスコードと 戦争被害受忍論

GHQは日本占領中の7年間、原爆について厳しいプレスコード(報道統制)を行い、原爆批判や被爆者の訴えを完全に封じました。

また1980年厚生省の諮問機関が「およそ戦争という国の存亡をかけての非常事態の犠牲は、すべての国民がひとしく受忍ししなければならない」という「受忍論」も被爆者の発言や活動を停滞させました。

そして今、私たち福島原発事故の被災者にも「受忍論」が持ち出される気配があるような気がします。

平和賞受賞 被団協先駆者たちの歴史的なことば

- 山口仙二さん 2013年、82歳で死去。4歳の時長崎で被爆。1982年にニューヨーク国連本部で被爆者として初めて激しい演説を行い、衝撃を与える。「ノーマ・ヒロシマ ノーマ・ナガサキ ノーマ・ウォー ノーマ・ヒバクシャ」
- 谷口稜庵すみてるさん 2017年、88歳で死去。長崎で16歳の時爆心地から1.8キロの路上で郵便配達中に被爆し、背中一面に火傷を負う。41歳の時写真の「赤い背中の少年」として講演が殺到した。「(赤い背中の中の自分を掲げ)どうか目をそらさないで、もう一度みてほしい。私を最後の被爆者に。」
- 坪井直すなおさん 2021年、96歳で死去。20歳で被爆し大やけどを負う。広島平和公園でオバマ大統領と握手。「(アメリカへの憎しみは) そりゃ、腹の底にはようけあるよ。けど乗り越えないかん。人類の幸せを願うからだ。」



車務局員の新聞投書

▼2025年1月18日『朝日新聞』『声』朝刊・デジタル掲載

「黒い雨」語れぬ体験

福島でも

無職 山崎 健一
(福島県 79)

1980年代、教員仲間と福島県相馬双葉地方で被爆者20人を探し出し、体験談を出版しました。広島・長崎の出身者と、兵士として原爆投下に遭遇した方々です。爆風で20度吹き飛ばされた、広島と長崎で2度被爆した、教えきれぬ遺体を焼却し地獄の鬼のようだった、黒い雨に打たれた。凄惨な証言ばかりでした。体験を聞いて感じたのは、東北の片田舎で被爆から40年も経つのに偏見を恐れ苦しむ姿でした。半数以上が匿名を希望。家族にも被爆を隠していたり、娘さんの縁談が被爆者の子として断られたり。まるで小説「黒い雨」です。福島の原爆事故による新たな被爆の懸念もありました。日本被団協の困難で地道な活動に心からの敬意を抱き、ノーベル平和賞が世界の平和と核廃絶運動の力になることを願っています。そして、石破政権が対米従軍を脱して日本独自の外交を進め、核兵器禁止条約の批准を決断するよう期待します。